

「古鷹山登山研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

標高394mの古鷹山の山頂を目指して登山をする。青少年交流の家（以下「交流の家」）から道路沿いを歩き登山口から山道を登っていく。最後に林道を通り、再び道路沿いを歩き交流の家へ戻ってくる。登山途中に自然を散策したり、頂上付近では瀬戸内海に浮かぶ島々を眺めたりできる。

（登山ルートは、別紙古鷹山登山マップを参照）

2 活動のねらい

- グループで登山することで、自然に親しむとともに、仲間意識を高める。
- 最後まで諦めないでチャレンジすることで、達成感を得る。
- グループでの協力と思いやりの心を培う。

古鷹山

広島湾に浮かぶ風光明媚な江田島の北中央部に、まるで大空から舞い降りた鷹のような姿をした山がある。その山を古鷹山といい、昔、荒れ狂う海に漂う一艘の小舟を助けた大鷹が姿を消した山として、その名が伝えられている。

3 研修対象者

小学校5年生以上とする。

ただし、保護者又は責任の持てる引率者と活動する場合はこの限りではない。

4 コース及び研修人数等

1日コース 徒歩200人程度

半日コース 徒歩、交流の家のバス活用 70人程度

（バス 最大乗車人数52人、マイクロバス 最大乗車人数28人）

徒歩、交流の家の自転車活用 80人程度

（変速機付20インチ5台、変速機付26インチ33台

変速機無26インチ50台）

5 実施時期

通年

6 コース別のルート、所要時間等

(1) 1日コース

○研修時間 9:00～16:00

○全て徒歩となる。

○弁当が必要となる。（弁当は交流の家のレストランで注文できる。）



ルート（主要ポイント）	所要時間※（徒歩）	距離
交流の家 ↓ 奥小路登山口	60分	4.2km  【奥小路登山口】
奥小路登山口 ↓ 頂上まで200m地点 （林道トイレまで600m地点）	50分	1.8km  【古鷹山頂上まで200m地点】

頂上まで200m地点 (林道トイレまで600m地点) ↓ 古鷹山頂上	10分	0.2km  【古鷹山頂上】
古鷹山頂上 ↓ 頂上まで200m地点 (林道トイレまで600m地点)	10分	0.2km
頂上まで200m地点 (林道トイレまで600m地点) ↓ 林道トイレ	10分	0.6km  【下山時の分かれ道】  【林道トイレ】
林道トイレ ↓ クマン岳登山口	15分	1.0km  【クマン岳登山口】
クマン岳登山口 ↓ 幸の浦分かれ	40分	2.7km  【幸の浦分かれ】
幸の浦分かれ ↓ 交流の家	35分	2.4km

※ 所要時間は、あくまで目安である。研修生の健康状態や当日の気象条件によって変わる。(以下同じ)

(2) 半日コース

○研修時間 午前 9:00~12:00 午後 13:30~16:30

【バス利用】

① 半日コースの交流の家から奥小路登山口が交流の家のバス、マイクロバスでの送りとなる。
この場合、事前に相談が必要となるが、場合によっては利用できないこともある。

②ルート(主要ポイント) 所要時間
 交流の家 → 奥小路登山口 バス 10分
 奥小路登山口 → 交流の家 徒歩 170分
 (1日コースと同じ)

【自転車利用】

①交流の家~奥小路登山口の往復に自転車を利用する。

この場合、登山と下山は同じコースとなる。(奥小路登山口→古鷹山頂上→奥小路登山口)

②ルート(主要ポイント) 所要時間
 交流の家 → 奥小路登山口 自転車 20分
 奥小路登山口 → 頂上まで200m(林道トイレまで600m)地点 徒歩 50分
 頂上まで200m(林道トイレまで600m)地点 → 古鷹山頂上 徒歩 10分
 古鷹山頂上 → 頂上まで200m(林道トイレまで600m)地点 徒歩 10分
 頂上まで200m(林道トイレまで600m)地点 → 奥小路登山口 徒歩 30分
 奥小路登山口 → 交流の家 自転車 20分

(3) 注意事項

- 休憩場所
 - ① 奥小路登山口… 200人程度が座って休憩できる。(駐車場と兼用のため車に注意する。)
 - ② 頂上まで200m地点(林道トイレまで600m)… 200人程度が座って休憩できる。
 - ③ 古鷹山頂上… 50人程度が座って休憩できる。
 - ④ 林道トイレ付近… 200人程度が座って休憩できる。
- 昼食(弁当)をとる場所
 - ① 古鷹山頂上… 50人程度が弁当を食べることができる。
 - ② 林道トイレ付近… 200人程度が弁当を食べることができる。
- トイレの場所
 - ① 奥小路登山口
 - ② 林道トイレ
- その他, 注意事項
 - ① 頂上までの登山 … 頂上は50人程度が座るくらいの広さしかないため, 団体の人数が多い場合, 頂上まで登らず, 「頂上まで200m(林道トイレまで600m)」と掲示されている看板のある所から各コースのルートに従って下山すること。(上記看板のあるところから頂上へは一人ずつしか通ることができない一本道なので, 同時に登り下りができない。)
 - ② 頂上登山の鎖と梯子… 斜面が急なので鎖が設置してある。ひとりずつ鎖と梯子を使い安全に登り下りをする。
 - ③ 下山時の分かれ道 … 「頂上まで200m(林道トイレまで600m)」と掲示されている看板から林道トイレの間に分かれ道があるので, 「古鷹山登山マップ」や案内板の表示を確認し方向を間違えないように下山する。

7 実施の可否

- (1) 判断時期(いずれも研修当日)
 - ① 1日コース 8時40分
 - ② 半日コース 午前の部… 8時40分 午後の部… 13時10分
 - ③ 活動実施中… 随時
- (2) 実施の可否基準
以下の①～⑥の場合及び①～⑤が予想される場合, 活動を実施しない。
 - ① 局地風(突風)がある場合
 - ② 台風が接近している場合
 - ③ 暴風警報が発表されている場合
 - ④ 大雨警報が発表されている場合
 - ⑤ 雷鳴がしている場合
 - ⑥ その他, 特に登山に不適切と判断した場合
- (3) 可否の連絡方法
 - ① 上記(1)①, ②の場合
交流の家職員(以下「職員」)から, 9(2)①の総括責任者へ知らせる。
 - ② 上記(1)③の場合
 - ア. 総括責任者が中止を判断した場合は, 直ちに総括責任者から携帯電話で交流の家に報告する。
 - イ. 交流の家の所長が中止を判断した場合は, 直ちに職員は総括責任者の携帯電話に知らせる。

8 準備物

- (1) 個人: 登山に適した服装, 運動靴, 帽子, タオル, 飲み物, 軍手, カップ(雨天時実施及び雨天が予想される場合)
- (2) 引率者: 携帯電話
- (3) 交流の家(事務室): 携帯用救急バック(1個), 救急法の基礎知識(1冊), マムシの写真(1枚), 古鷹山登山マップ(引率者人数分), ハンドマイク(1台), トランシーバー(4台), 緊急時用ホイッスル(4個), 雷探知機(1個)
※トレッキングポールの貸出可(最大30組60本)

【半日コース、自転車利用の場合】

交流の家（サイクリング車庫）：体に合った自転車，ヘルメット（奥小路登山口まで自転車を利用する場合）

9 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「古鷹山登山研修」のプログラムをもとに，団体が古鷹山登山の指導・安全管理等を行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。（小規模の団体は担当を兼ねられる。）

- ① 総括責任者（全体の総括・緊急時の連絡担当）・・・1名
- ② 指導担当者（用具の準備・後始末の指示，先導，指導，安全管理）・・・1名以上
- ③ 安全確認担当者（最後尾での安全確認，安全管理）・・・1名以上
- ④ 救護担当者（健康観察・応急処置）・・・1名

(3) 事故発生時の処置

①総括責任者：事故の状況を把握し，交流の家に携帯電話で連絡を行う。ただし，緊急時には，直接，江田島消防署，江田島警察署に連絡を入れ，その後，交流の家に連絡をする。

②指導担当者：救助に向かい，事故者を安全な場所に避難させる。

③安全確認担当者：事故者を除いた研修生を広く安全な場所に集合させ，人数，名前を確認する。

④救護担当者：救助に向かうとともに，応急処置を行う。

事故発生の連絡が交流の家にあった場合，所長は複数の職員（看護師がいる場合は同行）を現場に派遣し，救助，応急処置に加わせるとともに，搬送用の車を手配する。緊急時には，江田島消防署，江田島警察署に連絡を入れる。（①ですでに連絡済の場合，不要）

※ 引率者同士はトランシーバーを使って連絡を取り合う。つながりにくい場合は個人の携帯電話を使用する。トランシーバーや携帯電話は必ず安全な場所（自転車使用時は停車して）で使用する。

10 展開

(1) 「古鷹山登山研修実施届」及び「古鷹山登山研修参加者名簿」（以下「実施届等」）の提出

実施届等に必要事項を記入し，総括責任者が研修1週間前までに郵送で交流の家へ提出をする。実施届等が到着後，職員は確認の電話をする。可能な限り，引率者は，下見の登山をおこなう。

(2) 事前打ち合せ

職員と総括責任者の打ち合わせ

- ① 研修生の健康状態に十分配慮し，体調不良者には登山をさせないことを説明する。団体から提出された実施届等の変更の有無を聴取し，変更がある場合は修正する。
1部コピーし，総括責任者を通じて，指導担当者に渡す。（原本は交流の家事務室用）
- ② 「古鷹山登山研修」プログラムを基に研修の実施方法，安全管理等を説明する。
- ③ 緊急時の連絡方法として総括責任者の携帯番号を聴取する。
- ④ 雷探知機を渡す。交流の家は30分ごとに気象状況をチェックし，異変があれば連絡する。

(3) 事前準備

- ① 指導担当者は，交流の家（事務室）でマムシの写真（1枚），古鷹山登山マップ（引率者人数分），ハンドマイク（1台），トランシーバー（4台），緊急時用ホイッスル（4個），雷探知機（1個）を受け取る。

【半日コース，自転車活用の場合】

サイクリング車庫に行き，職員立ち会いのもと自転車，ヘルメットを出す。

- ② 救護担当者は，交流の家（事務室）で携帯用救急バック（1個），救急法の基礎知識（1冊），雷探知機（1個）を受け取る。

(4) 事前指導 (つどいの広場)

【1日コースの場合】

- ① 指導担当者はつどいの広場に整列させる。
- ② 救護担当者は健康観察を行う。
- ③ 指導担当者は実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認、変更がある場合は、実施届等を修正して交流の家に報告する。変更のない場合もその旨を報告する。
- ④ 総括責任者は目的、注意事項を説明する。
 - ア. 車が通る道路ではいっばいに広がらず、右側を歩く。狭い山道は安全を考え真ん中を一人で歩く。
 - イ. 登山道でない所は歩かない。
 - ウ. 登山道では走らない。
 - エ. 火気の取扱いはしない。
 - オ. 石や土を投げたり落としたりしない。
 - カ. 自然を破壊しない。
 - キ. かぶれる木 (ハゼ・ウルシ等) や有毒生物 (マムシ・ムカデ・ハチ等) に注意する。マムシの写真を見せながら説明。
 - ク. 雨・雨上がりには足元に十分気をつける。
 - ケ. 適宜休憩をとり、水分補給をする。
 - コ. けが、体調が悪くなったら、引率者に連絡する。
 - サ. 山水を飲まない。
 - シ. 山頂付近は、急な斜面になっているので、鎖と梯子が設置してある。その鎖と梯子をうまく利用しながら、安全に配慮して、登り下りする。
- ⑤ 出発前にトイレを済ませておく。
- ⑥ 指導担当者は、簡単な準備運動を実施する。(膝屈伸、手首、肩回しなど)



【半日コース、バス利用の場合】

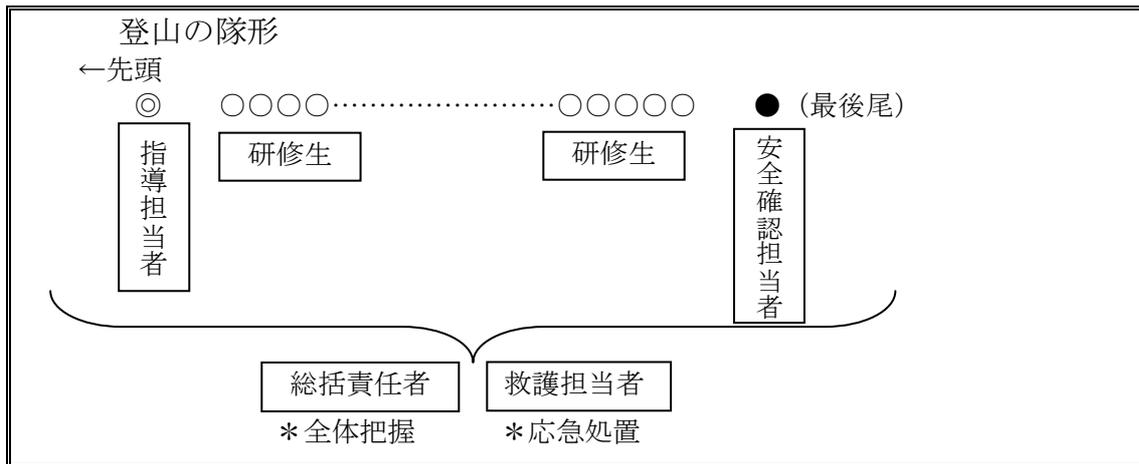
- ①～⑥上記【1日コースの場合】の①～⑥に同じ。
- ⑦ 指導担当者は、交流の家の玄関前に止めてあるバスに乗るように指示をする。

【半日コース、自転車利用の場合】

- ①～③上記【1日コースの場合】の①～③に同じ。
- ④上記【1日コースの場合】の④に同じ。下記、自転車に乗る時の注意事項を加え説明する。

(自転車に乗る時の注意事項)

 - ア. 『つどいの広場』～『駐車場』間の坂道は見通しが悪いので自転車を押して歩く。
 - イ. 車道の左を1列で進む。
 - ウ. 蛇行運転をしない。
 - エ. 車間距離をつめすぎない。(3～5mの車間距離を保つ)
 - オ. 急ブレーキをかけない。
 - カ. 必要に応じて後方確認を行う。
 - キ. 狭い道路で車が来た場合、下車し待機する。
 - ク. 信号、道路標識を守る。(軽車両を運転していることを自覚する)
 - ケ. 路地がある場合、一旦停止する。
 - コ. 横断歩道を横断する場合、自転車から降りて左右の確認を行う。
- ⑤～⑥上記【1日コースの場合】の⑤～⑥に同じ。
- ⑦ 指導担当者は、サイクリング車庫前まで行くように指示する。
- ⑧ 指導担当者は、出発前に自転車の点検 (サドルの調整、空気圧、ブレーキ)、乗車練習をさせる。
 - ア. 自転車のサドルの高さは、乗車した際に両足がつく高さに調整する。
 - イ. 空気圧は、乗車した状態でへこんでいないか確かめる。空気が少ない場合は補充する。
 - ウ. ブレーキの効きを確認 (前・後) する。
 - エ. ヘルメットはあごひもを正しく締めて着用する。



(5) 登山の実際（展開）

【1日コースの場合】【半日コース、バス利用の場合】

- ① 指導担当者を先頭に登山隊形になり、交流の家（奥小路登山口）を出発する。
- ② 適宜休憩及び水分補給をさせる。（休憩場所は、6（3）を参照）
- ③ 指導担当者は、奥小路登山口到着時、林道トイレ到着時に実施届等で参加者の人数、名前を確認するとともに、救護担当者に指示して健康観察をさせ、状況を交流の家に携帯電話で報告する。実施届等に変更がある場合は修正する。
- ④ 弁当がら等のゴミは持ち帰る。
- ⑤ トイレ（奥小路登山口、林道トイレ）を使用したら、簡単に清掃する。
- ⑥ 指導担当者は体力の弱い者のペースに配慮しながら歩く。
- ⑦ 総括責任者は、林道トイレ休憩後、先頭になり幸の浦別れまで行き、幸の浦別れでは、帰路の方向を間違えないよう研修生に指示をする。

【半日コース、自転車利用の場合】

- ① 指導担当者を先頭に登山隊形になり、交流の家を自転車で出発する。
- ② 奥小路登山口に自転車を整理して駐輪し、監視者を1名おく。
- ③ 指導担当者を先頭に登山隊形になり、奥小路登山口を出発する。
- ④ 適宜休憩及び水分補給をさせる。（休憩場所は、6（3）を参照）
- ⑤ 指導担当者は、体力の弱い者のペースに配慮しながら歩く。
- ⑥ 指導担当者は、奥小路登山口到着時、頂上まで200m（林道トイレまで600m）の看板到着時に実施届等で参加者の人数、名前を確認するとともに、救護担当者に指示して健康観察をさせ、状況を交流の家に携帯電話で報告する。実施届等に変更がある場合は修正する。
- ⑦ 下山時は、登山時と同じコースを通り奥小路登山口に下山する。
- ⑧ トイレ（奥小路登山口）を使用したら、簡単に清掃する。
- ⑨ 指導担当者を先頭に登山隊形になり、自転車で奥小路登山口を出発する。

(6) 登山研修実施後（つどいの広場）

【1日コースの場合】【半日コース、バス利用の場合】

- ① 指導担当者はつどいの広場に整列させる。
- ② 指導担当者は実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認するとともに、救護担当者に指示して健康観察をさせ、交流の家に終了報告をする。
- ③ 指導担当者はまとめ（講評）をし、解散する。
- ④ 指導担当者及び救護担当者は借用物品を交流の家（事務室）に返却する。（1日コースの場合弁当がらをレストランに持っていく。）

【半日コース、自転車利用の場合】

- ① 指導担当者はサイクリング車庫前に整列させる。
- ② 指導担当者は実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認するとともに、救護担当者に指示して健康観察をさせ、交流の家に終了報告をする。
- ③ 指導担当者はサイクリング車庫において職員立会いのもと自転車、ヘルメットの返却（整理整頓）を行う。故障車については状況を報告する。
- ④ 指導担当者はまとめ（講評）をし、解散する。

⑤ 指導担当者及び救護担当者は借用物品を交流の家（事務室）に返却する。

(7) その他

【半日コース，自転車活用の場合】

① 途中自転車が故障し，動かなくなった場合は，直ちに交流の家に携帯電話で連絡をする。

1.1 連絡先

	一般電話番号	緊急通報用電話番号
江田島青少年交流の家	TEL 0823-42-0660	
	TEL 0823-42-0661	
江田島消防署（救急係）	TEL 0823-40-0358	119
江田島警察署	TEL 0823-42-0110	110

古鷹山登山マップ

主なポイントと所要時間

4.2km	2.0km	0.8km	1.0km	2.7km	2.4km
交流の家→奥小路登山口	奥小路登山口→古鷹山頂上	古鷹山頂上→林道トイレ	林道トイレ→クマン岳登山口	クマン岳登山口→幸の浦分れ	幸の浦分れ→交流の家
60分	60分	20分	15分	40分	35分



県道に出る。車の通行量が多い。歩道がないので特に安全に注意して二列で歩く。

林道はアスファルト舗装。車の通行量は少ないが十分に注意。



細い道から国道に出るので車に注意。歩道を歩くこと。



道を間違えやすい地点です

林道トイレ【トイレ】

林道に出る。トイレ・水道あり。



古鷹山頂上

頂上まで200m地点

頂上まで200m 林道トイレまで600m

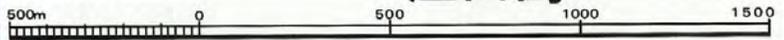


車の通行量が多いので注意。歩道を歩くこと。

国道横断。トイレあり。登山口までバスで来る場合ここで下車。

1:20,000

江田島



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万部の1地形図を複製したものである。(承認番号)



米軍秋月

古鷹山登山研修実施届

国立江田島青少年交流の家所長 様

研修団体名

総括責任者名

印

連絡先（携帯電話）

古鷹山登山研修を下記のとおり実施します。なお、古鷹山登山指導及び安全管理は当団体が
行い、研修中の事故、けが等については、当団体の責任において対処します。

記

1. 期 日 平成 年 月 日 曜日 時 分～ 時 分

2. 指導体制等

(1) 指導者の役割

指導担当者名 (1名以上)	
安全確認担当者名 (1名以上)	
救護担当者名	

(2) 登山をする人数 _____人 (別紙名簿を添付すること)

(3) 使用物品等 *交流の家職員との打ち合わせ時に記入

ハンドマイク 1, 救急バッグ 1, トランシーバー 4, 雷探知機 1, ホイッスル 4, 古鷹山登山マップ (引率者人数分 部) トレッキングポール (本) ※最大 30 組 60 本

3. 希望登山コース及びバス送迎, 自転車利用希望 (希望コースに○をつけてください。)

希望	コース	バス利用, 自転車利用の希望 (○印) *半日コースのみ
	①半日コース	バスの奥小路登山口までの送りを希望 (する・しない)
	②1日コース	自転車の利用を希望 (する [] 台・しない)

*バス利用 (所バス…最大 52 人, マイクロバス…最大 28 人) 及び自転車利用 (最大 80 人) ができない
場合もあります。必ず事前に御相談ください。

4. その他

(1) 打ち合わせ資料「『古鷹山登山』研修プログラム」を遵守し、実施します。

(2) 参加者の健康状態を十分に調査し、適当と判断した者のみ研修をさせます。

(3) 持参したゴミ等は、責任をもって持ち帰ります。

以下は記入の必要はありません

上記活動を実施することを許可 (する しない) ※どちらかに○をつける

所長	次長	主任企画専門職	事業推進係長	担当企画指導専門職

活動プログラム参加者名簿

◎活動プログラムに✓を入れてください。

- 古鷹山登山研修 カヌー研修 オリエンテーリング研修
サイクリング研修 水泳研修 ウミホテル観察研修
海辺の生物観察研修 *名簿は、活動プログラムごとに提出ください。

研修団体名() ※該当の区分に○を入れてください。

	名前	男性	女性	見学者	引率者
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					

	名前	男性	女性	見学者	引率者
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					
43					
44					
45					
46					
47					
48					
49					
50					
51					
52					
53					
54					
55					
56					
57					
58					
59					
60					
合計人数					

